
学 会

日本泌尿器科学会第 85 回佐賀地方会演題抄録

日 時 2020 年 9 月 5 日

場 所 ガーデンテラス佐賀ホテル & マリトピア

ハイブリッド方式（現地開催および Web 開催の併用）

佐賀大学医学部泌尿器科 2019 年の臨床統計

山里優香子・松下恭平・前田晃宏・永瀬 圭・草野脩平

里地 葉・川崎麻己・柿木寛明・有働和馬・東武昇平

野口 満（佐賀大学）

【目的】佐賀大学医学部泌尿器科における 2019 年度の臨床統計を報告する。【方法】2019 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間で、佐賀大学医学部附属病院における外来患者と入院患者について電子カルテ上で後ろ向きにデータ収集を行った。【結果】外来患者総数 8,638 名（前年度 7,564 名）でそのうち新来患者が 793 名（前年度 831 名）、再来患者が 7,845 名だった。新来患者疾患の内訳は腫瘍性疾患が 40%，小児泌尿器疾患が 15%，結石疾患が 10%，排尿トラブル関連が 10%，女性泌尿器疾患が 6% だった。入院患者総数は 677 名（前年度 661 名）であり、手術総数 608 件（前年度 628 件）だった。手術件数に関しては、大きく変化はなかったが LSC といった新しい術式も導入している。RALP 症例数は 46 件でありロボット手術開始後、最多となった。【考察】ロボット支援下の RAPN や RARC といった新しい術式を導入しており、今後のデータでは変化が予想される。

進行精巣腫瘍の 1 例

古森広輝・魚住友治・平井良樹・諸隈 太

徳田倫章（佐賀県医療センター好生館）

症例は 47 歳、男性。X 年 6 月から右精巣の腫大を自覚、10 月に腹部膨満感も自覚するようになった。12 月に当科紹介受診となり、右高位精巣摘除術を施行した。腫瘍マーカーは AFP、 β HCG 共に高値であった。病期分類は stage 3B、IGCC 分類は intermediate prognosis、病理は Mixed germ cell tumor であり、BEP 療法を 4 コース行う方針となった。1 コース目終了時の CT で、上行結腸と腫大したリンパ節に瘻孔形成が疑われ、3 コース目終了時の CT で、腫瘍と腸管および尿管への瘻孔形成、後腹膜膿瘍が疑われた。その後、敗血症性ショックの診断で死亡退院となった。本症例は IGCC 分類で中等度群であり、BEP 療法を 3 コースまで行い、肺転移および多発腫大リンパ節は縮小した。悪性腫瘍に対する化学療法は、活動性のある感染症の存在下では禁忌であるが、本邦にも精巣腫瘍の化学療法中に肺膿瘍を来し、抗生剤投与で治療し得た報告がある。本症例は抗生剤治療を行うも奏効せず、全身状態から外科的治療は困難であり最終的に死亡退院となった。

前立腺癌における精囊周囲被膜外浸潤の一考察

高山 梓・近松惣太郎・福地源司郎・林 純平・濱口益光

吉川正博・坂本直孝（九州医療センター）

【はじめに】前立腺癌被膜外浸潤は、一般的に前立腺の底部および尖部の後外側から神経血管束に向かって浸潤することが多いが、膀胱頸部から精囊前面の間の結合組織への浸潤を時に認めることがある（精囊周囲被膜外浸潤と定義）。同被膜外浸潤について臨床病理学的に検討した。【対象と方法】2000 年 6 月から 2020 年 6 月までの間に、前立腺癌に対して術前内分泌療法未施行で前立腺全摘除術を施行した 893 例を対象とした。【結果】被膜外浸潤陽性を 291 例認め、精囊周囲被膜外浸潤は 75 例であり、そのうち精囊浸潤を伴うものを 49 例、伴わないものを 26 例認めた。標本から癌の進展形式を観察すると、精囊浸潤を認めない症例では、前立腺の癌巣から直接被膜外へ浸潤していく像がみられた。【考察】同部の断端陽性を防ぐためには、膀胱頸部の切断において後面の縦走筋束を露出させた後に膀胱側で切断し、精囊基部を露出させずに剥離する方法が良いと考えられた。

特発性腎出血の 5 例

下地 覚・市原興基・金子 新・藤崎雅史・中村晃二

安芸雅史（藤崎病院）

保存的に止血困難であった 5 例の特発性腎出血を経験したので報告する。症例は男性 2 名、女性 3 名、年齢は 41～83 歳。患側は左 3 例、右 1 例、両側 1 例であった。5 例とも尿管鏡下レーザー凝固術で止血でき、4 例は現在まで再発なく経過している。1 例は再発を繰り返しため腎盂内過酸化水素注入療法を行い、その後は現在まで再発なく経過している。特発性腎出血は左腎に多いとされ、当院で経験した 5 例中 3 例が左、両側が 1 例であった。約半数は止血剤や安静などにより止血されるが、保存的に止血困難な場合は尿管鏡下に電気やレーザーによる熱凝固が行われることが多く、良好な治療成績が報告されている。熱凝固によってもコントロール困難な場合には、腎盂内薬物注入療法が選択されることがあり、硝酸銀が使用されることが多かったが重篤な合併症の報告も少なくない。近年は過酸化水素注入療法を行った報告が散見され、良好な止血効果が報告されている。

尿管異所開口を伴う低形成腎に対し腹腔鏡下腎摘除術を施行した成人女性の 1 例

里地 葉・中村圭輔・黒田庄一郎・桑原朋広（熊本市民病院）

高橋 渡（健軍熊本泌尿器科）

草野脩平（小波瀬病院）

東武昇平・野口 満（佐賀大学）

【症例】20 歳、女性。出生後まもなく発症したガートナー管囊胞感染を契機に他院で左低形成腎、左尿管異所開口と診断されていた。

進学を期に以前より遷延していた尿失禁に対して精査加療を希望され当科を受診。造影CTやMRIで左腎は同定できなかったが、内視鏡検査を経て尿管がガートナー管嚢胞に開口していることを確認した。尿管内に尿管カテーテルをメルクマールとして留置した状態で腹腔鏡下左腎摘除術を行った。左低形成腎を左総腸骨動脈前面に認め、腎動静脈を処理後に摘出した。尿管は可及的に剥離後切断した。

【考察】単一尿管異所開口のほとんどが低形成腎を伴い、画像上同定困難な可能性がある。腹腔鏡手術を行う際のポート位置の決定のためにも、ある程度の位置予想は必要である。今回我々は、異所開口部から逆行性造影を行い腎の位置を想定することで、比較的にスムーズに腹腔鏡下に低形成腎を摘出することができたので報告する。

光学的診断 (Photodynamic diagnosis: PDD) 併用 TURBT の有用性と問題点

松下恭平・東武昇平・瀧下弥仁雅・山里優香子・前田晃宏
高橋美香・柿木寛明・有働和馬・野口 満 (佐賀大学)

PDD 併用 TURBT は 5-ALA という物質を用いて青色光を照射し腫瘍を赤色に発光させ TURBT を施行する術式である。その有用性と問題点に関して、当科での経験症例を基に報告する。

1 例目は 77 歳の男性で、初回の TURBT から 2 年後に再発を指摘した。TURBT を施行するも病変を発見できず、不整粘膜の生検のみ施行し終了していたが、再度 PDD 併用 TURBT を施行すると赤色に発光する腫瘍を発見でき、治療を行った。

2 例目は 65 歳の男性で、初回 TUR から 4 年後に再発を指摘した。PDD 併用 TURBT を施行し、赤色に発光する丈の低い乳頭状腫瘍は TURBT を施行することで十分な治療が可能であった。

問題点は光線過敏症や低血圧の副作用、内服タイミングの調整や併用禁忌薬の存在が挙げられ、当院では各部署と連携し対応している。中でも低血圧は昇圧剤の持続投与が必要となった症例報告もあり、適応に関しては症例ごとに検討する必要があると考えられる。

尿路真菌症の 1 例

西村和重 (伊万里有田共立病院)

症例は 76 歳、男性。前医にて膀胱上皮内癌の診断で、2019 年 7 月 17 日に膀胱尿道全摘除術、両側尿管皮膚瘻造設術が施行された。同年 8 月 27 日より当院にて術後経過観察を開始した。

留置中の尿管ステント閉塞による腎盂腎炎を左右交互に頻回に繰り返すカテーテル関連尿路真菌感染症を発症したため、抗真菌剤、尿管ステント管理方法の変更にて治療を行った。留置中のカテーテル類が抜去できない状況での尿路真菌症治療は、非常に困難を要する。尿路真菌症治療について、若干の文献的考察を加えて報告する。

放射線性出血性膀胱炎に対する高気圧酸素療法の経験

松尾 学 (小柳記念病院)

明利治行 (唐津赤十字病院)

症例は 79 歳、男性。2007 年 8 月に前立腺癌にて根治的前立腺全摘除術が施行された。2011 年 4 月に PSA 再燃、局所再発にて吻合部に放射線照射 (Linac total 66 Gy) および内分泌療法が施行された。その後 PSA は低下した。2016 年 8 月に血尿が出現した。尿細

胞診は class 1 であった。膀胱鏡にて吻合部より出血があったが、止血剤等にて軽快した。その後たびたび血尿があるものの保存的治療にて軽快した。しかし 2020 年 5 月 14 日、膀胱タンポナーデを発症した。膀胱鏡にて吻合部付近の粘膜が発赤し、静脈性出血を確認した。膀胱内生理食塩水持続灌流を開始したが、症状改善せず 5 月 20 日高気圧酸素療法目的にて当科緊急入院となった。高気圧酸素治療装置を用い、2 絶対気圧下 100% 酸素吸入で 1 回 60 分間、計 10 回 3 コース施行した。血尿が一時増強したが、その後軽快し当科退院となった。高気圧酸素療法は放射線膀胱炎に対し有効であり、有害事象も認めず、有効な治療法と考えられる。

精巣に再発した形質細胞腫の 1 例

佐藤勇司・明利治行 (唐津赤十字病院泌尿器科)

木下徳雄・小嶺慎一郎 (いまりクリニック)

【はじめに】高齢者に発生する精巣腫瘍は悪性リンパ腫の頻度が高く、悪性リンパ腫以外の血液系腫瘍が精巣に発生することは稀である。今回、多発性骨髄腫維持療法中に精巣に再発した形質細胞腫の症例を経験したので報告する。

【症例】67 歳、男性。2019 年 4 月 1 日、当院血液内科で多発性骨髄腫維持療法中、急速に増大する左陰嚢水腫にて、近医泌尿器科を受診した。穿刺が行われたが、数日で再増大したため、MRI 検査が行われ、左精巣腫瘍の診断にて、2019 年 4 月 9 日、当科へ紹介され受診した。血液検査では LDH 383 U/l と軽度上昇し、AFP、HCG はいずれも正常範囲内であった。CT 検査では、明らかな遠隔転移は認めなかった。2019 年 4 月 15 日、左高位精巣摘除術を施行した。病理組織検査は IgG-κ 陽性の形質細胞腫であった。現在、当院血液内科で経過観察中である。

【結語】今回、我々は、IgG-κ 型多発性骨髄腫の維持療法中に、形質細胞腫が精巣に再発した症例を経験した。

前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺電気蒸散術 (TUV) 初期成績の報告

草野脩平・実藤 健 (小波瀬病院)

【緒言】薬物療法に治療抵抗性のある前立腺肥大症患者に対しては、外科的治療が必要である。経尿道的前立腺切除術 (TUR-P) が最もポピュラーな手技ではあるが、執刀経験数が必要な手術手技ともいえる。HoLEP や PVP などは設備投資が必要であり、従来の経尿道電気デバイスを用いた経尿道的前立腺電気蒸散術 (TUV: オーバル型電極を使用) を施行し、その安全性・有効性を評価した。

【結果】術前データ、男性 6 例、平均年齢: 78 歳、平均前立腺容積: 49 ml、尿閉の既往: 4 例、平均残尿量: 400 ml、平均 PSA: 3.35 ng/ml。術後データ、平均手術時間: 80 分、術後バルーンけん引: 1/6 例、膀胱還流: 1/6 例、平均 1 回排尿量: 200 ml、平均残尿量: 100 ml、Clavien-Dindo 分類Ⅲ以上の合併症の症例なし。

【考察】TUV にて従来の TUR-P と比較しても遜色ない手術成績を得られた。手術中の術野は、TUR-P と比較して出血が抑えられ、TUR-P 経験数の少ない執刀医でも安全な治療が行えると考えられる。

当院における前立腺癌患者の長期経過について——10 年以上前に診断した患者の動向

南里正晴・南里正之 (南里泌尿器科医院)

【目的】10年以上前に診断した前立腺癌患者の動向を調査し、泌尿器科医がすべきことを検証する。

【対象と方法】2007年から2009年までの間に当院で前立腺癌と診断した134例を対象とし、10年間の経過における患者の動向を調査した。

【結果】診断時の平均年齢は71.8歳、PSAの中央値は9.96 ng/mLだった。グリソンスコアは6点以下が36例、7点が60例、8点以上が38例で、転移を有する症例は14例だった。根治治療は37例で行い、残りの97例はホルモン療法単独だった。患者の現状は、生存例は45例で、前立腺癌死が7例、他因死が10例、他の泌尿器科へ紹介した症例が12例だった。認知症や合併症などで泌尿器科医がいない施設へ移った症例が26例で脱落例が34例だった。

【結論】これからの前立腺癌の治療においては、病期や悪性度だけでなく患者の将来的な状態を考えた治療法選択と非泌尿器科医との密な連携が重要である。

RAPN, RARC 導入の取組みと課題

前田晃宏・東武昇平・山里優香子・瀧下弥仁雅・松下恭平
高橋美香・柿木寛明・有働和馬・野口 満（佐賀大学）

【緒言】当科では、RAPNは2019年12月に導入後、これまで8例経験し、RARCは2020年7月に導入後、1例を経験した。【結果】RAPNは8例経験し、症例は平均59歳（47～71歳の男性6例、女性2例）、RENALスコアは平均6点（4～8点）、手術時間は平均221分（107～329分）、腎阻血時間は平均15分（7～21分）であった。当院でLPNを施行した62例と比較すると、LPNの腎阻血時間は平均26分（0～91分）でRAPNの方が有意に短かった。課題として埋没型や尿路に近い腫瘍などの手術適応の拡大をしていく。RARCの症例は47歳、男性。pT2N0M0で術前GC療法3コース後の患者である。回腸導管造設は小切開下で行い、手術時間は11時間44分、出血量は520 mlであった。術後に右下腿コンパートメント症候群を発症したが、保存的加療で改善した。今後は、手術時間の短縮や術中の一時的な碎石位解除を行うことで合併症発生率低下を目指す。安全に配慮しつつ今後も当院での症例数を増やしていく。